

私は山に向かつて目を上げる。私の助けは、どこから来るのか。

私の助けは主から来る。天地を造られたお方から。

詩篇 121篇1, 2節

コロナ禍というたいへんな出来事を経験した2020年も、まもなく過ぎ去ろうとしています。この時期、メディアでは一年の振り返りが行われ、多くの人が「一年前には2020年がこんな年になるとは思いもよらなかった」とコメントしています。人生100年時代と言われ人生がスケジュール化された時代ですが、実は私たちの人生は何が起ころるか分からないことを今年痛切に思い知らされたのではないのでしょうか。私たちは今、まさに先が見えない不安の中を歩んでいます。

詩篇121篇はエルサレム神殿へ巡礼の旅をした時に人々が歌ったと言われます。現代と異なり、当時の旅は容易ではなく、危険や苦勞と隣り合わせでした。その道すがら、人々は「山」つまりエルサレムを遠くに望みながら「私の助けは、どこから来るのか」と問います。その答えが「私の助けは主から来る。天地を造られたお方から」とのことばです。

私たちは人生という旅路を辿りながら、「天の都」を目指しています。「世にあつては苦難があります。しかし、勇気を出しな

い。わたしはすでに世に勝ちました。」(ヨハネの福音書 16章33節)と主は仰いました。私たちの日々の生活には苦しみや恐れ、悲しみがあります。しかし、この地上に降臨して人々の間に住み、世の苦しみと痛みを味わった主が私たちの重荷を知り、支えてくださいます。詩篇121篇3〜8節には「守る」という語が6回出てきます。また、7節には「すべてのわざわいからあなたを守り」とあります。試練や困難の中にあると、主の助けはどこにあるのか、と疑問を抱く私たちですが、暗闇にあつても私たちは神の守りの中にあることを信じたいと思います。

たいへんな出来事を経験した一年も主がここまで守ってくださったことを覚えて、主への感謝をささげましょう。(泰)

【報告 消息】

・イヴ燭火礼拝 報告 聴くドラマ聖書でたどるクリスマスと題して行い、短い時間でしたが、迫力のあるドラマ聖書に聞き入り、イエス様降誕の日に思いを馳せました。コロナ禍にあつて例年とは異なる形でしたが、ネット配信もリアルタイムで20件、その後の合計で100件以上の試聴回数があり、多くの方がご覧くださいました。皆さまと共に主の御降誕を祝うことができて感謝でした。

出席者数 35名(内、新来者6名)

・コロナ禍にあつて、しばらく礼拝出席を控えますとご報告をいただくことが増えています。教会はネット配信の手配するなどできることは限られています。可能な方はこれをご活用ください。

また、礼拝CDが必要な方はお申し出くだされば手配致します。

・アンケート「2020年を省みて コロナ禍の中で」

ご協力くださった方に感謝します。今から提出したいという方もあるかと思えます。本日も受け付けています。